

学んだ教訓語り合おう

30団体の170人が報告会

阪神大震災の救援や医療活動に県内から加わった人らが集まり七日、岡山市上中野一丁目の宗忠神社で

「大震災ボランティア反省・報告会」（国際貢献トピア岡山構想を推進する会国内対話委員会主催）が

開かれた。被災地で気づいた点などを話し合い、今後の災害などで生かしていくことを確認しあっ

た。報告会には昨年十月に「国際貢献岡山NGOサミット」を開いた「トピアの

会」に所属する約三十団体の百七十人が参加し、体験を紹介した。アジア医師連絡協議会（AMDA）のメンバーらは、非常時の無線通信の重要性を指摘。御津郡加茂川町の職員は、平素から近所付き合いを進めたり、近隣自治体が助け合ったりすることが必要だと話した。

岡山市民ボランティア・グループに加わった黒住教職員の石原秀則さん（四一）は、神戸市兵庫区の市立兵庫中学校で一月二十三日から五十一日間、避難所の炊き出しにあたったことなどを披露。三月まで同中学の校長だった辻堯さん（六〇）が「食料が届かず、パニックになりかけていた。自分で仕事を見つけてくれるボランティアが一番ありがた」と感謝する場面もあった。